

鎌北湖で記念撮影

昭和33年ごろ（浅香雄次さん提供）

昭和33年ごろ、東京都内の中学校から遠足で観光バスを使って鎌北湖に来たときの写真です。当時は、県道が鎌北湖まで通じていなかったため、手前の広場でバスを降りて、歩いて鎌北湖まで行きました。1クラス47～48人、5クラス250人ほどが一同に休憩をとれる場所は、この写真を撮った場所だけだったようです。



現在の風景

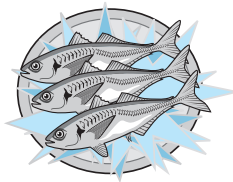
お知らせ

長い間、広報もろやまの裏表紙の顔として続けさせていただいた毛呂山思い出写真館は、掲載可能な写真が不足しているため、今後の掲載継続が難しくなっています。昭和60年代ごろまでの昔の写真が皆さんの家庭にも眠っていませんか？ 写真を貸していただけの方は、役場秘書広報課広報広聴係 ☎(295) 2112 内線332までご連絡ください。



後然歳時記

あき さば 秋鯖



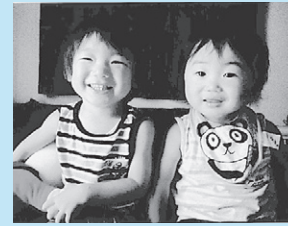
脂が乗っておいしい「秋サバ」の季節になりました。この呼び名からも分かるように、サバの旬は秋。春から初夏にかけて産卵を終えたサバは夏場にたっぷりエサをためこみ、年間を通じて秋に最も脂が乗っておいしくなるためです。

この脂ののった時期のサバこそ、EPAやDHAなどの不飽和脂肪酸が豊富に含まれていて、血中のコレステロール値を下げたり、血液をサラサラにする効果があり、生活習慣病の予防が期待されます。ビタミン、ミネラルも多く、美肌効果や老化防止に役立ちます。なお、サバは魚の中でも特に傷みやすいので、調理するときは、塩焼きや味噌煮、竜田揚げなど、加熱して食べることをお奨めします。

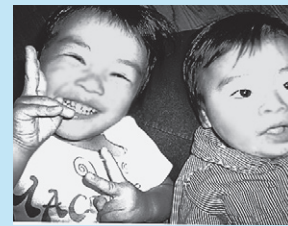
ところで、「サバを読む」という言葉がありますが、サバは非常に鮮度が落ちやすく大漁に捕れたため、昔の魚市場（いさば）で魚屋さんがサバを数えるとき、ものすごいスピードで数えては箱に投げ入れるので、数が合ったためしかなかったそうです。そこから数をごまかすという意味になったということです。また、福井県小浜市から京都市に入る道を鯖街道と呼びます。サバに塩をまぶして夜も寝ないで京都まで運ぶとちょうど良い味になることから、運ぶ人たちは「京は遠ても十八里」と唄いながら寝ずに歩き通しました。サバは、京都の食文化の中に今も生き続けています。

もうすぐ10月です。皆さんも今年は、脂ののった秋サバ料理を楽しんでみてはいかがでしょうか。

最近、8月号の特集記事で、ご協力いただいた皆さんに色いろな場所で声をかけられます。記事の出来はともかく、広報マン冥利に尽きるとはこのことだと思います。多くの方がたのご理解、ご協力に深く感謝申し上げます。今後も町民の皆さんの力をお借りして、良い紙面づくりに努力していきたいと思ひます。(Y)



伊藤 史昊くん
(2歳9か月)
成俵くん
(1歳9か月)



長谷川 優芽ちゃん
(2歳10か月)
颯一くん
(11か月)

お絵かきが好きなお昊とボール遊びが好きな成俵。仲良し年子ちゃん兄弟☆ これからもたくさん食べて、遊んで、のびのび育ってね。

毎日笑顔いっぱいなゆめちゃんと颯ちゃん居れて幸せだよ。いっぱい泣いてもいるけど日々成長していく2人を見てるのが楽しいよ。これからもどんどん成長していくゆめちゃんと颯ちゃんを見守らせてね。

■ 秘書広報課では「わがやのアイドル」を募集中です。
☎・☎ 役場秘書広報課 ☎(295) 2112 内線332

人口 36,292人 (-72人)
【男 18,078人 (-28人) 女 18,214人 (-44人)】
世帯 15,780戸 (-18戸)
※平成23年9月1日現在(カッコ)内は前月比

口広報もろやまは、役場ホール、両公民館、図書館、保健センター、教育センター、総合公園体育館、歴史民俗資料館、福祉会館に置いてあります。

